

歴史プリント「第一次世界大戦と民族独立の動き」「大正デモクラシー」

3年 組 番氏名 _____

教科書をよく読み、Q(質問)に対しては記述で、空欄については用語を書いて埋めましょう。

教科書は P202～P207が範囲になります。まずは、一通り読んでみると、歴史の流れがよくわかると思います。プリントにある用語で分からないものがあれば、教科書や辞書などを活用して必ず調べてメモしておきましょう。

◆朝鮮の三・一独立運動(P202～203) 【eboard 第一次世界大戦と国際社会 6】

第一次世界大戦後、日本の植民地とされていた朝鮮で独立への希望が高まる。その背景には、ウィルソンが唱えた(①)の原則があった。しかし、アジアの植民地独立は認められることはなかった。

1919年3月1日、京城で朝鮮における独立が宣言され、人々が(②)と叫んで行進したのをきっかけに自由と独立を求める運動が朝鮮全土へ広がった。この一連の動きを(③)という。日本政府は、言論・集会の自由は認めたが、(④)に基づく植民地支配は続いた。

◆中国の五・四運動(P202～203) 【eboard 第一次世界大戦と国際社会 6】

1919年5月4日、(⑤)の学生たちが、日本製品の不買など行い、(⑥)を始めた。その理由は、1915年、日本政府が中国政府に提出した(⑦)の撤回を求めるものであった。その運動は、後に全国に広がり、(⑧)に反対する運動へと発展していった。この運動のことを、(⑨)という。

このうち、(⑩)は(⑪)中国国民党を設立し、ソ連や中国共産党と協力しながら、国民改革を進めました。孫文の死後は、(⑫)が国民党の実権を握ったが、1927年に(⑬)に国民政府を作り、中国共産党と対立するようになった。

◆インドの民族運動(P202～203) 【eboard 第一次世界大戦と国際社会 6】

インドを植民地支配していた(⑭)は、戦後にインドの独立を約束していたが、その約束は果たされることはなかった。そのことに対して、インド人の(⑮)らは、完全な自治を求め、「⑯・⑰」をスローガンとする、独立運動を推し進めた。

◆護憲運動(P204～205) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1～4】

日露戦争後の前後は、藩閥や官僚を後ろだてとする(⑱)と、立憲政友会の総裁である(⑲)が交互に内閣組織していた。

1912年、軍備の拡張を抑えようとした西園寺公望は軍部の反対により総辞職し、陸軍大将の桂太郎が組閣する。これに対して、尾崎行雄・(⑳)らの政治家・新聞記者たちは、立憲政治に反したやり方であるとして、政府を批判する、(㉑)運動を行った。結果として、桂内閣は50日あまりで総辞職に追い込まれた。一連の騒動を(㉒)という。

◆民本主義(P204～205) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1～4】

第一次世界大戦以降、(㉓)の風潮が世界的に高まると、吉野作造は(㉔)を唱えた。吉野作造はデモクラシーを(㉕)と翻訳し、民意に基づいた政治を大日本帝国憲法の枠内で実現していくための方法を説きました。また、憲法学者の(㉖)は天皇機関説を主張し、大戦末期から戦後にかけての、政党を中心とした政治の確立を求める動きに、大きな影響を与えた。

◆米騒動 (P204~205) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1~4】

大戦中の好景気は、労働者人口の増加や産業の発展に加え、(27))の上昇をもたらした。特に米価の上昇は、人々の生活に大きな影響を与え、1918年夏、(28))県の漁村で女性たちが米の安売りを求める運動を起こした。この動きは全国に広がり各地で米屋や精米会社を襲う(29))へ発展した。

Q1 米騒動がおこったきっかけについて、なぜ米価が上昇したのかを中心に説明しましょう

◆政党政治の確立 (P204~205) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1~4】

各地で起きた米騒動は、政府米の安売り、軍隊の出動、内閣総辞職へとつながった。その後、1918年(30))が首相になると、内閣の閣僚の多くが立憲政友会の党員が占める、本格的な(31))が始まる。

◆社会運動の高まり (P206~207) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1~4】

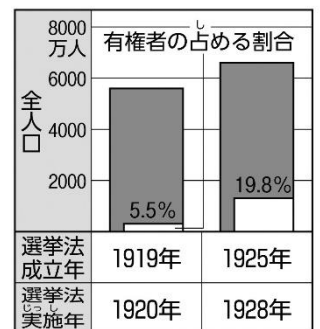
第一次世界大戦後が終わると、日本の貿易は再び輸入が輸出を上回る赤字の状態となり、景気が悪化していった。戦後恐慌とよばれる経済不況の中、ロシア革命や米騒動などの影響も受けて、(32))が活発になった。具体的には、賃上げや労働時間の短縮を要求する(33))や、農村では、地主に対する小作料の引き下げや耕作の権利の要求などの(34))がある。1922年、私有財産制度や君主制の廃止を求める、(35))がひそかに結成された。

女性へ対する差別を廃止し、地位の向上を訴えた(36))や、市川房枝らを中心として女性の参政権を求める運動も起こりました。また、厳しい部落差別に苦しんでいた人々は1922年(37))を設立し、差別からの解放と、自由・平等を求めた。北海道では、アイヌの人たちに対する差別の廃止をもとめて(38))が設立された。

◆普通選挙と治安維持法 (P206~207) 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1~4】

1920年代に入ると、普通選挙運動が活発となる。1924年には第二次護憲運動が活発化し、1932年まで(39))の時代が続いた。1925年、(40))が成立した。

Q2 資料は普通選挙法が成立する前後の全人口、有権者数とその割合を示している。この法律が成立したことで、有権者数が大幅に増えた理由を、選挙資格に触れて、簡単に書きなさい。



政府は天皇中心の国の在り方を変革したり、私有財産制度を否定したりする運動を取り締まるために、1925年に(41))を制定。

これにより社会主義運動・社会運動全体も制約を受けるようになった。

◆協調外交 【eboard 大正デモクラシーと社会運動 1~4】

大戦後、(42))の常任理事国となった日本は、アメリカ・イギリスなどと国際協調を重視する外交を進めるようになった。このような、大正時代を中心として、政治や社会に広まった民主主義の風潮や動きを(43))という。